

松が丘片山会館について

当松が丘片山会館の歴史は、昭和8年当町深野千代氏が北野神社に、隣接する同氏所有の土地40坪余を寄進され、そこに昭和33年当町野村宗一氏から提供された同氏所有の家屋及び多額の金員をもとに、町内有志の寄附金を加え、提供家屋を移し、会館として改築した。ここに当松が丘片山会館の歴史が始まる。

以来約40年の間地元住民の諸活動の拠点としての役割を果たしてきた。しかし、年月の経過とともに、会館の老朽化が進み、安全な状態での使用が困難となった。

そこで、新しい会館建設の声が高まり、平成8年会館建設委員会が結成され、具体的な建設活動が開始された。

建設計画を進めるに当たっては、解決せねばならない大きな問題として、①神社境内を使用することについての神社庁との交渉、及び、②建設資金の調達があった。①については、境内に町会としての建物を建てることは、神社庁行政上例がなく強く難色を示したことから、社務所として建ててはどうかなどの意見もあったが、連夜の諸議論の結果、町内の総意を得るためには町会の会館にすべきという意見にまとまった。これをもとに所管の神社庁に再三にわたる陳情を行い、当町会と松が丘北野神社との長年にわたる特に密接な係わりや結びつきなどを繰り返し説明した結果、特例として、会館建設の許可を取り付けることができた。

②については、当初は中野区からの補助金1,500万円をもととして計画を進めたが、区の補助金を使った場合、諸々の制約を受けることになり、会館運営上好ましくないとの結論に達し、純粋な町会員自身による建設資金の調達をはかることとした。

そこで、平成8年9月全町会員あて建設趣意書を配布して寄附を募ったところ、長期景気低迷下にもかかわらず、403名からの応募があり、これに当町会が長年行ってきた廃品回収に対する区からの補助金等の積立金を加え、必要資金の調達をはかることができた。

以上のとおり問題点を解決して、平成9年1月着工、同年5月めでたく竣工式を執り行った。ここに平成におけるこの夢の大事業が実現できたことは、関係者をはじめ広く町会員の真に喜びとするところである。

この会館については、諸々の町会行事、長寿クラブや子ども会の活動などをはじめとして町の活性化、また、大規模災害発生などの際の活動拠点として、広く利用されていくことが期待されている。

以上